

2019年3月 日

道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書（案）

-----様

突哨山運営協議会役員会
（代表 出羽 寛）

はじめに

このたびは道道鷹栖東鷹栖比布線工事に関する情報を早くからご提供下さり、環境保全に対するご配慮に感謝いたします。

突哨山運営協議会は2008年、旭川市と比布町にまたがる突哨山の環境保全と利活用に関する幅広い合意形成を図るため設立され、地元の専門家や住民、両市町の担当者らで構成されています。今回は公園区域外の工事となりますので、協議会の役員会として、本道路工事に対して要望意見を述べます。

突哨山は上川盆地に「緑の半島」のように突き出した細長い森林丘陵で、石狩川や他の丘陵とともに盆地内の「緑の回廊」を形成する重要な位置を占めています。明治期からの農業利用によって、元の原生林は雑木林に姿を変えています。大規模な開発はなかったため、人と自然の働き合いによる生物多様性の高い生態系となっています。確認されている菌類、動植物は1700種に上ります。

カタクリやエゾエンゴサクなどの春の花群落が有名ですが、突哨山の価値は個々の希少植物ではなく、多くの動植物を育む環境の多様性と農業地帯に細長く残ったその地理的位置にあると言えます。

突哨山は一時はゴルフ場用地として民間企業に取得されましたが、身近な自然環境の保全を求める4万人を超える署名が集まり、2000年に旭川市と比布町が151haを購入し、公有地となりました。市民の手で守られた自然環境の維持管理に市民の声を反映させるため、突哨山運営協議会が設置されました。

突哨山運営協議会は幅広い市民の参画を得て、突哨山の科学的な調査・モニタリングを基に、保全と利用のバランスのとれたゾーニングと管理運営の方針を策定し、環境教育・施設整備・維持管理業務などの総合的・具体的な活用について検討と提言を行なっています。そして、市民・行政・指定管理者の三者が対話と行動を積み重ね、新しい協働のモデルを育てています。

道道工事に対する要望

■環境保全の考え方

建設予定線は突哨山の北部を横断しますが、一帯は突哨山から鬼斗牛山（三角山）、さらには広大な道北の山地へと続く「回廊の根元」にあたります。人家や農地、施設が点在しますが、野生動物の移動や植物の分布にとって重要な緩衝帯（バッファゾーン）の役割も果たしています。

現在の道路の状況や通行量をみますと道路改良の必要性は十分理解できます。そうであるからこそ工事にあたっては、希少種の移植のような個体・特定種レベルの対策にとどまらず、路線全体が一帯の自然環境に及ぼす影響を予測し、必要な対策を講じられるよう、生態系全体を意識した調査と配慮を強く要望いたします。

■環境調査について

生物種ごとに活動や休眠の時期が異なるため、調査の時期は適切なタイミングが重要であり、複数回、継続的な観察が必要なこともあります。現在のアセスメントは季節的にベストだったとは考えにくく、特に変化の大きい春季の調査の充実を求めます。

現地視察を計画していただくことは大変ありがたいことです。これもゴールデンウィーク明けごろが望ましく、時期や回数についてご配慮下さい。

アセスデータには湿地性植物が見られますが、そうした環境にはニホンザリガニやエゾサンショウウオが生息する可能性があります。植物だけに偏らない環境調査を実施して下さい。

■保全の方法について

希少植物保全のため移植をすることはあり得ますが、その場合、移植をすることが目的ではなく、移植によってその種がどこに、どのように生き残るか、ということが重要です。

移植先としてはどこを検討されているでしょうか。突哨山の公園区域内への移植は、既存植生への攪乱の問題があり、難しいと考えます。

また、それぞれの種の移植について、どんな場所でどのように行われ、生存率などはどうであったかなど、先行事例と今回の考え方をお示し下さい。

交通量が増え、車の走行速度が上がると、野生動物のロードキル(交通事故)や移動阻害の問題が発生します。

この一帯は幅の狭いコリドー（回廊）の地形であり、ヒグマ、エゾシカからキタキツネ、タヌキなどの大型中型の動物の移動が確認されています。リス類やユキウサギのほか、コウモリ、鳥類も車と衝突する事例が知られています。また、ネズミ類などの小型動物や昆虫は道路側溝に落ちて這い上げられなくなるトラップ現象も起きます。完全に防ぐことは困難ですが、地理的な重要性に鑑

み、対策をご検討ください。

■工事の方法について

法面緑化の際は、周辺環境への影響を配慮してください。外来種は避けるべきですが、在来種であっても大量に種子を飛散させるものは問題があります。

施工の時期や工法によっても、環境への影響が強まったり、軽減されたりします。今後計画が具体化する中でお示し下さい。道路幅員、用地幅、高低図、法面や側溝など具体的な計画も、遅くならないタイミングで提供をお願いします。

全体としましては、環境的に敏感な地域の工事ですが、事前にご連絡、資料の提供を頂き、協議や視察の機会を用意していただいていることは画期的なものと考えております。難しい課題もありますが、今後とも情報公開と環境重視の方針を貫いていただきますよう期待し、お願いを致します。

連絡先：突哨山運営協議会事務局（NPO もりねっと北海道）
旭川市神居町雨紛 380-3 電話 0166-60-2420